

神奈川地本 関係機関との連携訓練に参加



関係機関との連携訓練

神奈川地方協力本部（本部長 高田充一 海佐）は、平成26年5月27日（火）、朝霞駐屯地で実施された関係機関との連携訓練に参加した。

関係機関からは東京都、神奈川県、静岡県、岡県の危機管理担当者をはじめ、東日本及び中日本高速道路株式会社、東京電力株式会社、中部電力株式会社、NTT東日本株式会社、KDDI株式会社、株式会社NTTドコモの災害対策担当者が参加した。南海トラフ地震対処計画の概要説明の後、静岡県から日向灘を震源域とする地震（マグニチュード9.1、最大震度7）が発生したという想定で「発災直後における情報共有」、「自衛隊の被災地の展開に係る連携」、「孤立地域に対する連携」の3つのテーマについて活発な議論が行われた。

神奈川地本は「南海トラフ地震が発生した場合、東日本大震災をはるかに上回る被害が予測されており、関係機関との連携は、ますます重要性を帯びてくることから、今後上級部隊等が計画する各種訓練に積極的に参加し、対処能力の向上及び各関係機関との連携の深化を図っていく」としている。

神奈川地本 26 JXRに参加



統制部が置かれた駐屯地体育館

神奈川地本（本部長 高田充一 海佐）は、平成26年6月2日（月）から6日（金）までの間、朝霞駐屯地で実施された平成26年度自衛隊統合防災演習（26 JXR）に参加した。

演習は静岡県から日向灘を震源域とする地震（マグニチュード9.1、最大震度7）が発生したという想定で行われ、神奈川地本は、自治体、警察、消防等関係部外機関としてレスポンスを実施するとともに陸災E A部隊としてホームステーションプレイで参加した。

神奈川地本は「地本の役割を理解し、関係機関との連携を図りつつ、震災対処能力の向上を図っていきたい」としている。

駅前で募集広報



自衛隊募集相談員

神奈川地方協力本部溝の口募集案内所（所長 上野3陸尉）は、6月3日（火）及び4日（水）、小田急線向ヶ丘遊園駅前で、市街地広報を実施した。

大学及び高校生が多く利用する駅で募集対象者に自衛隊を身近に感じてもらうと川崎北自衛官募集相談員10名の協力を得て実施した。「自衛隊を受験したい」、「自分の子供を自衛隊に是非入隊させたい」という人も現れ、成果があった。また、暑い中協力いただいた自衛官募集相談員の方々と親睦を深めることができたのも、もうひとつの成果であった。

溝の口募集案内所は、「募集環境が厳しさを増す中、募集広報を工夫し、目標達成に邁進していく」としている。